



AOI-UCS-Q1i

ウルトラコンパクトストロボQ1i

30628

30629

Fisheye

■ 目次

<安全にお使いいただくために> ······	3
<仕様> ······	5
<各部名称> ······	6
<使用方法>	
・バッテリー装填手順 ······	6
・光ファイバーケーブルの接続 ······	7
・ディフューザーの着脱	
・操作方法 ······	7
【スタンバイモード】	
【オートパワーオフ】	
【LEDライト調光】	
・フラッシュモード ······	8
【TTL/i-TTLモード】	
【RCモードとSONYモードの切り替え】	
【TTL/RCモード】	
【TTL/SONYモード】	
【Mモード】	
【オートラーニング機能（プリ発光キャンセル）】	
・その他の機能 ······	10
【ストロボテスト】	
【モデリング発光】	
【高温時保護機能】	
・光ファイバーケーブルの接続 ······	11
・ディフューザーの使い方 ······	12
・インジケーターの表示 ······	12
<メンテナンス> ······	13
・Oリングのメンテナンス	
・浸水テスト	
・使用後のメンテナンス	
・もしも浸水した場合	
・オーバーホール	

*取扱説明書について

- 本書の内容は、予告なく変更することがあります。
- 本書の内容について、誤記、記載漏れ、印刷ミス、不明な点などがありましたら、弊社もしくはお近くの販売店までご連絡をお願いいたします。
- 本書の一部もしくは全部をいかなる方法でも、個人利用を除いて、無断で複写・複製することはできません。

■ 安全にお使いいただくために

- 本製品は水中専用ストロボです。セッティング確認時を除き陸上での発光は控えてください。
- 必ずこの説明書をお読みの上、正しくお使いください。
- 誤った使い方をされますと、故障や水没の原因となり、修理不能になる場合があります。
- ご使用の際にはこの説明書に従い必ず点検、テストを行ってください。
- 分解、改造、修理に伴う事故などにに関して、弊社では一切責任を負いかねますので、ご了承ください。また、使用時の人身、物損事故に関しての補償はいたしかねます。

■ 安全上の注意

ここに表示した注意事項は、状況によっては重大な結果に結びつくおそれがあります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

- | | |
|-------------|---|
| ⚠ 危険 | 取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容。 |
| ⚠ 警告 | 取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。 |
| ⚠ 注意 | 取り扱いを誤った場合に、傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。 |

⚠ 危険

- バッテリー接点部同士を、金属板や針金などで接続しないでください。感電や発火の原因になります。
- 本製品を改造・分解しないでください。発熱や発火の原因になります。

⚠ 警告

- 本製品を乳児、幼児、小さなお子様など、本製品の取り扱い注意事項を理解できない人の手の届く場所に保管しないでください。
- 本体にバッテリーを入れたまま保管しないでください。ガスや液の発生によって、人体に影響を及ぼす危険があります。
- 本製品を収納・運搬する際は、必ずバッテリーを外してください。意図せず電源が入り、火災の原因になることがあります。
- 本製品をご自分の目や他の人の目に向けて照射しないでください。失明や視力障害など重大な障害を引き起こすことがあります。
- 本製品の発光部を床やテーブルに伏せた状態で点灯させないでください。また、燃えやすいものの近くで点灯させないでください。火災の原因となるおそれがあります。
- 必ず指定のバッテリーとチャージャーをご使用ください。他の製品を使用すると本製品を破損させたり、ガスが発生して危険な状態になる場合があります。
- 濡れた手でバッテリーやチャージャーを触ると感電する危険性があります。バッテリーは十分に乾いた手で取り扱ってください。
- ストロボやライトの発光後、発光部には触らないでください。火傷の原因になります。

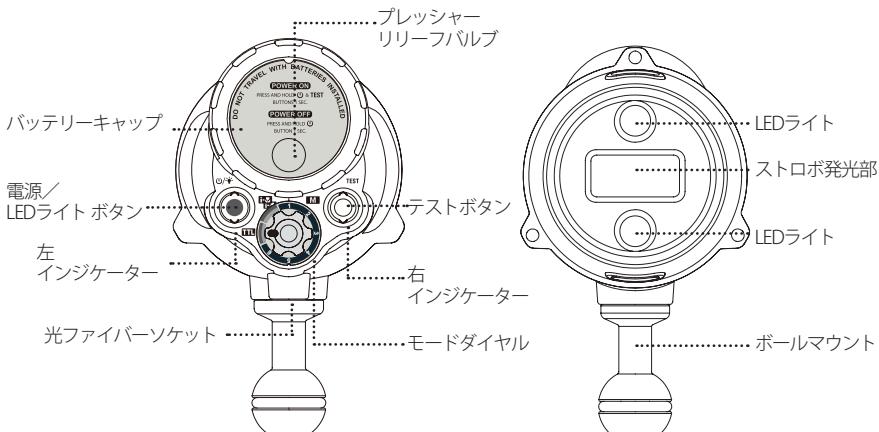
⚠ 注意

- 本製品は60mの水深まで耐えられるように設計されています。それ以上深い場所で使用したり、それより浅い深度においても衝撃や圧迫を加えると破損したり、浸水するおそれがあります。
- 浸水や故障などの事故を防ぐためにこの説明書をよくお読みになり、ご使用前後に必ず点検とメンテナンスを実施してください。
- 気温が異常に高くなる、あるいは低くなる場所、極端に大きな温度変化がある場所などに本製品を置いたり、保管したりしないでください。部品が劣化し、破損したり防水機能を損なうおそれがあります。
- 砂や塵、ほこりなどが多い場所で本体を開閉すると、防水部分に異物が付着し、防水性能が損なわれることがあります。
- 飛行機で移動する場合は、バッテリーキャップをゆるめて運搬することをおすすめします。気圧の影響で取り外しができなくなったり、またその状態で無理に取り外そうとすることで製品を破損するおそれがあります。
- 本製品から異音や異臭がする場合や煙が出る場合は、バッテリーを取り外し、お買い求めになった販売店に修理をご依頼ください。
- アルコールやベンジン、シンナーなどの有機系溶剤は、変形などの原因になりますので絶対に使用しないでください。
- 万一、浸水が発生した場合、速やかに電源を切り、バッテリーを取り外してください。濡れているバッテリーに直接触ると感電の危険性がありますので取り扱いには十分ご注意ください。
- 万一、浸水が発生した場合、すぐに使用を中止してください。また、浸水している場合、本製品内部の圧力が高くなっていますことがあります。本体を開ける際、水が噴き出したり、本体が跳ねねることがありますので、十分ご注意ください。

仕様

モデル名	AOI-UCS-Q1i-BLK/AOI-UCS-Q1i-WHT			
製品名	AOI-UCS-Q1i ウルトラコンパクトストロボQ1i			
カラー	Black./White			
材質	ポリカーボネート+グラスファイバー			
耐圧水深	60m			
ストロボ	ガイドナンバー	22		
	色温度	5600K (ディフューザー使用時5000K)		
	照射角度	縦85°、横85° (ディフューザー使用時)		
	リサイクルタイム	0.85秒 (Full発光時)		
	発光回数	1500回 (Full発光時、3100mAhリチウムイオンバッテリー使用時)		
	接続方法	光ファイバーケーブル		
	プレ発光	プレ発光オートラーニング/プレ発光キャンセル		
	フラッシュモード	TTL モード	OM SYSTEM	RC フラッシュ (グループA、チャンネル1) TTLオート、
		FTZ モード	OLYMPUS	マニュアル、FP TTLオート、FP マニュアル
			SONY	TTLオート、HSS TTLオート
LEDライト	M モード	6段階: 1/64、1/32+0.5、1/8、1/4、1/2、FULL		
	モデリング発光	2秒の点滅		
	発光テスト	あり		
	最大光量	700ルーメン		
	光量調整	100%、50%、25%、OFF		
バッテリー	色温度	5600K		
	照射角	45°		
	連続点灯時間	130分 (最大光量時、3100mAhリチウムイオンバッテリー使用時)		
	マウント	18650タイプリチウムイオンバッテリー×2 (別売)		
サイズ	サイズ	ポールマウントのみ		
	重量	陸上/水中	L125xW77xH131mm	
	付属品	550g/90g (バッテリー含む)		
AOI-SD-01 ストロボディフューザー、AOI-CKE-01エクステンションダイヤル、AOI-SOR-01 スペアリング、AOI-ORR-02 リングリムーバー、シリコングリス、バッテリーケース				

各部名称



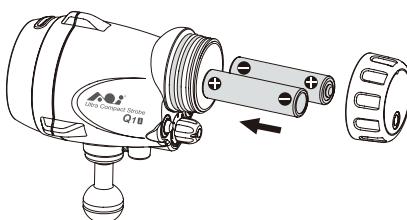
▲ 注意 ボールマウントは、専用のネジで固定されておりますので取り外しはしないでください。本製品のボールマウントはストロボ本体の熱を外部に逃がすヒートシンク機能を兼ねた部品です。改造・分解は絶対にしないでください。取り外した場合、発熱により製品故障の原因となります。

使用方法

バッテリー装填手順

バッテリーは、本体電池室上部の表記にしたがって装填します。電極 (+/-) の向きに注意してください。

バッテリーキャップの取り付けは、キャップ内側の接点部上部の凹部と、本体電池室上部の凸部を合わせてからネジ込みます。



指定バッテリーを使用ください。

類似品の使用は接触不良・故障の原因になります。

指定バッテリー

FIX Li-ionバッテリーFEBT186531S (#30381)



指定バッテリーの充電には、FIX CH-9デュアルバッテリーチャージャー (#30577) とFIX USBケーブルACアダプター (#30578) をご使用ください。

■ 操作方法

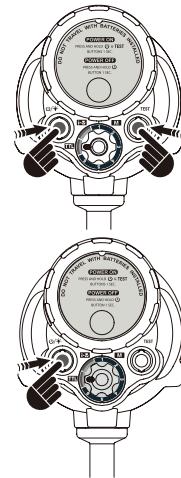
【電源のON／OFF】

1.電源／LEDライトボタンとテストボタンを同時に1秒押すと、電源がONになります。

右インジケーターの表示

チャージ中	チャージ完了	バッテリー残量
緑点滅	緑点灯	50%～100%
	黄点灯	25%～49%
	赤点灯	10%～24%
	赤点滅	10%未満

2.電源／LEDライトボタンを1秒以上押すと、電源がOFFになります。



【スタンバイモード】

15分以上操作しないと自動的にスタンバイモードになり、左インジケーターが点滅します。
電源／LEDライトボタンまたはテストボタンを押すと通常の電源ON状態に復帰します。

【オートパワーオフ】

2時間以上操作しないと自動的に電源がOFFになります。

【LEDライト点灯／調光】

電源ON状態で、電源／LEDライトボタンを押すとLEDライトが点灯します。
電源／LEDライトボタンを押すごとに、[OFF]→[25%]→[50%]→[100%]→[OFF]を繰り返します。
LEDライトは、ストロボ発光時に自動消灯し、発光後は再度点灯します。

■ フラッシュモード

ワイヤレスRCシステムを搭載したOM SYSTEM/OLYMPUSのカメラ用ハウジングでは**TTL**モードと**RC**モードが使用可能です。

AOIのSONY用ハウジングでは**TTL**モードが使用可能です。

その他の機種では**M**モードに設定の上ご使用ください。

【RCモードとSONYモードの切り換え】

電源OFFの状態で、モードダイヤルを**TTL**にセットします。

電源/LEDライトボタンとテストボタンを右インジケーターが緑点滅になるまで同時に押し続けます。

右インジケーターが緑点滅の状態で、左インジケーターが、青点灯 (RCモード)

↓

電源/LEDライトボタンを押します。

↓

左インジケーターが、オレンジ点灯 (SONYモード)

↓

電源/LEDライトボタンを押します。

↓

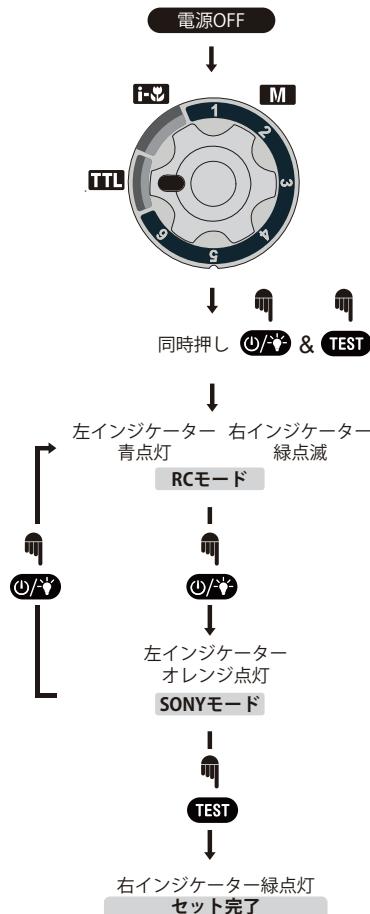
左インジケーターが、青点灯 (RCモード)

(繰り返し)

↓

テストボタンを押します。

右インジケーターが緑点灯状態になり、セットが完了します。



●モードダイヤル

【モード／RC (左インジケーター：青)】

OM SYSTEM／OLYMPUSのカメラ本体のフラッシュモードをRCに設定すると、「RC フラッシュ（グループA、チャンネル1） TTLオート、FP TTLオート、FP マニュアル」を使用することができます。

*発光後、右インジケーターが紫点滅をした場合は、フル発光または露出オーバーなど発光制御範囲外の警告となります。

【モード／RC (左インジケーター：青)】

マクロ撮影用のRCモードです。超近接撮影時に選択することを推奨します。

マクロ撮影に最適な光量制御により露出オーバーを防ぐことで、適正露出の写真を撮ることができます。

*発光後、右インジケーターが紫点滅をした場合は、フル発光または露出オーバーなど発光制御範囲外の警告となります。

【モード／SONY (左インジケーター：オレンジ)】

AOIのSONY対応ハウジングで使用すると、「TTLオート、HSS（ハイスピードシンクロ） TTLオート」が使用できます。

*発光後、右インジケーターが紫点滅をした場合は、フル発光または露出オーバーなど発光制御範囲外の警告となります。

【モード／マニュアル (左インジケーター：白)】

マニュアル発光のモードです。光量は、手動で6段階に設定できます。モードダイヤルをマニュアルモードに設定すると、左インジケーターが白点灯します。

マニュアルモード	1	2	3	4	5	6
光量	1/64	1/32+0.5	1/8	1/4	1/2	Full

【オートラーニング機能（プリ発光キャンセル）】

カメラの機種により内蔵フラッシュやストロボ設定で、本発光のみの場合と本発光の前にプリ発光（予備発光）を行う場合があります。そこで、カメラ側からの発光信号を自動的に学習・保存させUCS-Q1iのマニュアル発光を同調させるのがオートラーニング機能です。

*オートラーニング機能を使用する場合は、カメラが装填されたハウジングとUCS-Q1iを光ファイバーケーブルで接続する必要があります。

光ファイバーケーブルの接続は、P11の「光ファイバーケーブルの接続」を参照してください。

オートラーニング機能の設定

UCS-Q1iとハウジングを光ファイバーケーブルで接続します。

電源OFFの状態で、モードダイヤルを **M** の「1」にセットします。

電源／LEDライトボタンとテストボタンを右インジケーターが緑点滅になるまで同時に押し続けます。

右インジケーターが緑点滅の状態で、

左インジケーターが白点灯（オートラーニング有効）

電源／LEDライトボタンを押します。

左インジケーターが消灯（オートラーニング無効）

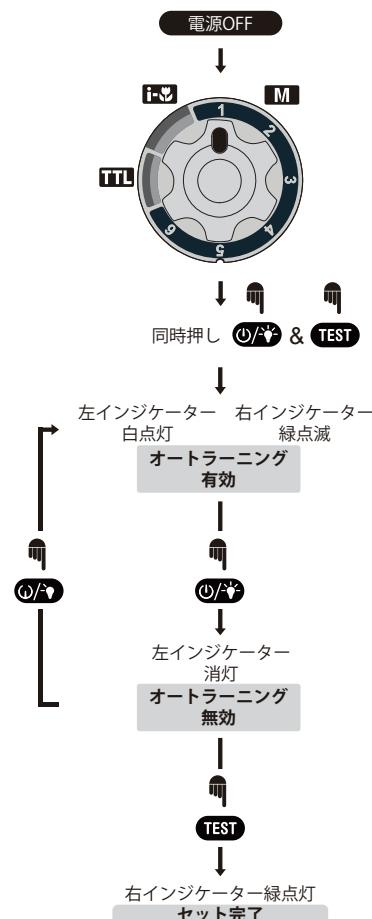
テストボタンを押し、右インジケーターが緑点灯になると設定が完了します。

ハウジングの電源をONにしてシャッターを切り、UCS-Q1iを発光させます。

左右のインジケーターが交互に点滅し、ハウジングからの信号を学習・保存します。

以降は、UCS-Q1iのマニュアル発光が同調するようになります。

*カメラ側のストロボ設定を変更したり、機種変更した場合は再度上記の設定を行ってください。



■ その他の機能

【ストロボテスト】

電源ONの状態でマニュアルモードにセットし、テストボタンを押すとストロボが発光します。左インジケーターが緑点滅はチャージ中、緑点灯でチャージ完了です。ストロボテストはマニュアルモードだけの機能です。



【モデリング発光】

電源ONの状態でマニュアルモードにセットし、テストボタンを押し続けるとストロボが2秒間ストロボパルスを発します（連続の高速発光）。撮影前に照射角を確認したり、周囲の環境が明るくターゲッティングライトの光量が不足する場合に利用できます。ピント合わせが難しいスヌート撮影（AOI-SNT-01スヌートを使用）の場合にも役立ちます。

【高温時保護機能】

本製品には過熱保護回路が装備されています。内部の電子機器の温度が急激に上昇すると、ストロボの過熱を防ぐためにストロボの再チャージリサイクル時間が自動的に遅くなります。ストロボを継続して使用すると、過熱保護回路が作動する場合があります。右インジケーターが紫色にゆっくりと点滅し、ストロボが一時的に停止します。ストロボが冷えると、インジケーターが通常に戻り、すべての機能が再開されます。

■ 光ファイバーケーブルの接続

光ファイバーケーブルの一方の端を本製品の光ファイバーソケットに挿入し、もう一方の端をカメラハウジングの光ファイバーソケットに挿入します。



▲ 注意

光ファイバーソケットは、使用後水で洗い流し、自然乾燥させてください。

光ファイバーケーブルは推奨製品をご使用ください。

推奨光ファイバーケーブル

#50135 SEA&SEA 光ファイバーケーブル II S/2 コネクター

#50128 SEA&SEA 光ファイバーケーブル II M/2 コネクター

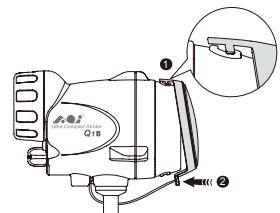
#50133 SEA&SEA 光ファイバーケーブル II L/2 コネクター

（詳細は Web サイトをご覧ください）

■ ディフューザーの着脱

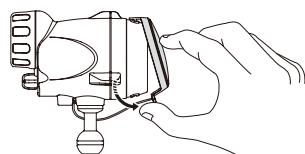
●ディフューザーの取り付け

本体発光部上部の凹部に、ディフューザーの紛失防止紐穴が無い方の凸部をはめ、凹部に、ディフューザーの紛失防止紐穴がある方の凸部を押し込みます。



●ディフューザーの取り外し

ディフューザーの紛失防止紐穴がある方の凸部を外側に押すようにして、本体発光部下部の凹部から外し、紛失防止紐穴が無い方の凸部を、本体発光部上部の凹部から外します。



■ インジケーター表示

モードダイヤル	左インジケーター	右インジケーター	ステータス表示
ストロボモード			
TTL RC	青	緑：点滅 緑：点灯 紫：点滅	チャージ中 チャージ完了 発光制御範囲外
TTL SONY	オレンジ	緑：点滅 緑：点灯 紫：点滅	チャージ中 チャージ完了 発光制御範囲外
M	白	緑：点滅 緑：点灯	チャージ中 チャージ完了
バッテリー残量			
TTL M	モードの色	緑：点灯 黄色：点灯 赤：点灯 赤：早い点滅	50%～100% 25%～49% 10%～24% 10%未満
ストロボ障害			
TTL M	ストロボモードの色と紫が同時にゆっくり点滅		高温時保護機能

メンテナンス

■Oリングのメンテナンス

本製品は専用のOリングによって防水機能を維持しています。本体側バッテリーキャップ取付け部の2本のOリングは、ユーザーによるメンテナンスが必要です。長期間ご使用にならない場合は、Oリングに付属のシリコングリスを薄く塗って保管してください。また、Oリングは1年ごとの交換をおすすめします。



注意

- Oリングを外す際は、絶対に金属製の鋭利なものはさみやナイフ)を使わず、付属の「Oリングリムーバー」をご使用ください。
- Oリングの摩擦や劣化を防ぐため、Oリングの表面に付属のシリコングリスを薄く塗布(グリスアップ)します。その際、砂や小さなゴミ、髪の毛などが付着していないか必ず確認してください。また、シリコングリスが多すぎると、かえってゴミやホコリが付きやすくなりますのでご注意ください。
- Oリング面に小さな傷やひび割れなどがある場合は、絶対に使用せず、すぐにスペアのOリングに交換してください。
- Oリング溝、Oリング接触面にも、砂や小さなゴミ、髪の毛などが付着していないか必ず確認してください。また、傷やひびなどがないかもしつかり確認してください。
- Oリング溝にOリングを装着する際、Oリングがねじれたり、はみだしたりしないようにご注意ください。
- OリングやOリング溝のチェック、グリスアップなどは、バッテリーキャップの開閉ごとに実施してください。

■浸水テスト

本製品の使用前に、浸水テストの実施をおすすめします。水を張った洗い桶や洗面器などに、本製品を水平を保ったまま浸してください。3秒で一度、30秒で一度、3分間で一度、水から取り出して、異常がないか確認してください。

■ 使用後のメンテナンス

1.使用後は、本体をおよそ10～20分程度、真水に浸けておいてください。また真水の中で、各ボタンやダイヤルを回し、ボタンの周囲についた塩分を洗い流してください。洗うときはバッテリーキャップを動かさないでください。

▲ 注意

海水で使用後、そのまま放置すると細かいすき間などに塩分が残り、乾燥するとその塩分が結晶となり水に溶けなくなってしまいます。結晶化した塩分は時にOリングを押し上げ、浸水の原因になりますので、必ず真水に浸けて塩分を洗い流してください。

- 2.真水から上げたら、弱い流水で洗ってください。強い水流を一定方向から当てるときも浸水の原因となりますので、絶対におやめください。
- 3.洗い後は、乾いた柔らかい布などで水気をよく拭き取ってください。直射日光による乾燥、ドライヤーやストーブによる乾燥は、故障や変形、破損の原因となりますので絶対におやめください。
- 4.ご使用後は、Oリングにシリコングリスを薄く塗ってから保管してください。Oリングは1年毎に交換されることをおすすめします。
- 5.長期間ご使用にならない場合は、高温多湿、直射日光、極端に気温が下がる場所を避けて保管してください。
- 6.保管時はバッテリーは取り外してください。長期間ご使用にならないときは、内部電子部品の劣化を防ぐために、1か月に一度を目安にバッテリーを入れてテスト発光をおこなってください。
- 7.アルコールやシンナー、ベンジンなどの有機系溶剤や中性洗剤は、変形や破損の原因となりますので、絶対に使用しないでください。

■ もしも浸水した場合

本製品は、万一、本体内部に浸水してもダメージが最小限で抑えられる構造になっていますが、浸水を確認した場合や浸水が疑われる場合は、速やかに本製品の使用を中止し、弊社カスタマーサービスまでご連絡ください。

■ オーバーホール

本製品の使用回数に関わらず、1年から2年に一度の定期的なオーバーホールをおすすめします。製品内部にユーザー自身では交換できない防水パーツを使用しています。これらを定期的に交換・メンテナンスすることで浸水事故を防止し、製品寿命を延ばすことになります。一定期間が経過した製品は、ぜひ弊社カスタマーサービスまでオーバーホールをご依頼ください。